



おおあし

第10号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 》

大学生選手活躍の陰には

大学生のスポーツがテレビ等で中継されるようになり、活躍した大学および選手が注目を集めています。活躍の陰で、保護者の金銭的な負担はいかばかりかと大学生の子供をもつ我が身としては水を差す余計な心配をしてしまいます。学費は当然その他に、寮生活や年数回行われる合宿遠征、各大会への参加とそれに伴う宿泊、ユニホームやシューズ・スパイク等、大学からの補助で賄われる部分はあるとしても、保護者の苦勞は並大抵ではありません。かつては、駒澤大学の陸上部、大八木監督のように、数年間社会人を経験して大学に入学する選手もいました。（大八木監督はそのため、3年次箱根駅伝2区区間賞だったものの、当時の年齢制限規則により4年次は参加資格がありませんでした。）保護者の方は、子どもの活躍を願い必死で働きます。しかしながら、家のローンや家賃、教育ローンの借入、兄弟の学費、加えて消費税の増税、コロナ禍による経済の低迷、世界情勢の影響によるエネルギー関係および食料品等の相次ぐ値上げが家計を直撃、賃金は上がるどころか下降の現在、経済的に余裕のある家庭はあるのかなと思ってしまう。「賃上げ」が叫ばれる中、安定していると言われる公務員も一定の年齢になると昇級はなくなるので「給料（基本給）」は上がりません。そんな中、またしても「増税」の話が出ています。

ここで、昨年、日本ラグビー「リーグワン」初代チャンピオンになった、埼玉パナソニックワイルドナイツゼネラルマネージャー 飯島均氏が昨年行った講演内容を紹介します。（熊谷市教育研究会主催 令和3年8月18日 埼玉パナソニックワイルドナイツクラブハウスでの講演会記録より）

…大学に入学してラグビー部合宿所での生活が始まり、夏になってようやく練習が休みの日に実家に帰った飯島氏は鍵を忘れたため、スーパーでパートをしている母親に鍵を借りに行きます。

そこで見たものとは……

「その時にバックヤードで働いている母親を初めて見ました。凄い雷雨でも浴びたぐらい、汗でびしょびしょでした。今でも思い出すと涙が出てきそうになるのですが、目の奥からふわっと涙があふれてきました。とにかく私は、家が貧しかったこともあり、化粧などきれいにしていない母親を格好悪いと思っておりました。そのような世代でもあったかとも思うのですが、とにかく母親を見られるのも嫌でしたし、母親と一緒にいるところを見られるのも嫌でしたが、そのような自分が、凄く愚かといいますか、しょうもない子どもであったということを感じました。」

…その後、「鍵を貸して」と言い出せなかった飯島氏は公園のブランコに座り、「ラグビーで食べていきたい」「母親に家を造ってやりたい」という目標をもち、チームメイトと日々努力を重ね、当時「不可能」と言われた、母校初の大学No.1となります。卒業後、三洋電機ラグビー部（パナソニックの前身）に入り、選手そして監督として活躍します。…

昨年、ある大学駅伝で区間賞の選手がインタビューの中で「お母さん、いつもお金を出してくれてありがとう」と言った言葉に、解説者の瀬古利彦氏は「お母さんは泣いて喜んでいるでしょうね」とコメントしていました。インタビューで保護者に言及する選手はこれまでいなかったので驚きました。ただ、その感謝の言葉は補欠を含めた選手全員の思いを代弁しているように私は受け取りました。

保護者がどんな思いで働いているのか、何のために働いているのか、小学校段階では理解が及ばない所もあります。昨年度の修了式では、義務教育は将来社会人になって仕事をしてお金を稼いで家族を養うための準備であるという話をしました。だから立派な社会人になるためには今の勉強をしっかりとしないといけないとも話しました。生活科見学や社会科見学は実はキャリア教育の一環でもあります。施設で働く方の思いを知ることがねらいの一つです。保護者の皆様もどんな思いで働いているのか何のために働いているのか機会があればお子さんに話していただけたら幸いです。

（校長 橋本 浩）

